

ストーリー

荒らされた仏壇に「許せない」 敏腕刑事が転身を決意した最後の捜査

2026年3月24日 7時30分 有料記事


奥田薫子

長年窃盗犯を追いかけてきた捜査員が、キャリアを生かした第二の人生に踏み出している。ベテラン刑事が一念発起して防犯コンサルタントに転身したきっかけは、退職前に手がけた「最後の事件」だった。

神奈川県警の警部だった小野田准さん（51）は昨春、退職して故郷の札幌市に戻り、防犯コンサルタントの会社を立ち上げた。今年3月には起業支援などを行う「RSM汐留パートナーズ」（東京都港区）が新規事業として立ち上げた防犯セキュリティサービスのアドバイザーにも就任した。

企業の特徴に合わせた防犯対策の提案や、反社会勢力への対応など、防犯について幅広く応じていくという。



RSM汐留パートナーズの防犯・安全セキュリティアドバイザーに就任した、元神奈川県警警部の小野田准さん（左）=2026年2月25日午後3時33分、東京都港区、奥田薫子撮影 

思い出の実家 床に吐き捨てられたガム

小野田さんは県警内では実力派の捜査員として知られていた。刑事畑で、窃盗事件などを扱う捜査3課での経験が豊富だった。定年を前に独立起業する背中を押したのは、刑事として最後に携わった連続窃盗事件での経験だった。

窃盗グループのメンバー10人を逮捕するのに約2年かかった。全国で急増する空き家が狙われ、関与したとみられる事件は700件あまりにのぼった。県内だけでなく、静岡、埼玉、愛知、三重の各県にまで被害が広がっていた。

事件が解決しても、被害者たちの言葉が胸に刺さった。

実家が被害に遭った人は、両親が暮らしていた当時の状態で管理し、たまに子どもたちで集まって昔話をするのを楽しみにしていた。

被害後、両親や先祖の仏壇は荒らされ、位牌（いはい）や遺影は床に転がっていた。「ガムも吐き捨てられていた。許せない」

ある被害者は、荒らされた実家で空の指輪ケースを拾い上げた。指輪は、亡き母が新婚旅行で海外に行った時に父に買ってもらったとうれしそうに教えてくれた、大切なものだったという。



神奈川県警の刑事時代の小野田さん（画像の一部を加工しています）=本人提供 

窃盗グループは法廷で「宝探し」

逮捕されたのはベトナム人らだった。来日したが重労働で賃金は安く、勤務先から脱走。ベトナム人の先輩のつてを頼り、窃盗グループに加わるなどしていた。


法廷では盗みに入った経緯も語った。仲間から「住人は死んでいるから困る人はいない」と聞かされたという。犯行時は「宝物を探しているような気持ちだった」と説明した。

最後の事件の捜査が終わった時、長年くすぶっていた思いがこみ上げた。事件の摘発は大切だ。けれど、被害に遭う前にアドバイスができていたら？

容疑者を逮捕し動機や余罪を解明できても、被害に遭った金品は被害者の元に戻らないことが多い。すでに容疑者らによって処分されているからだ。「事件自体を発生させない仕組

みづくりのために、出来ることはないのだろうか」



神奈川県警の刑事時代の小野田さん=本人提供 

神奈川県警の実力派捜査員から

刑事の経験を生かしながら、警察とは違った面で防犯に貢献したいと、退職を決めた。地元の札幌市に戻り、同じく県警で盗犯捜査の経験が長かった大矢和宏さん（55）と「小野田企画」を立ち上げた。防犯についてのコンサルタントや講演を行っている。

ほどなく、北海道出身で札幌の拠点を拡大しようとしていたRSM汐留パートナーズの前川研吾社長と知り合った。今後は、同社の福利厚生の一環として、社員個人が抱える空き家問題やストーカー被害などの相談にも小野田さんが応じる。

小野田さんは「警察だけでは解決しづらいような困りごとも後方支援していければ」と話す。

関連トピック・ジャンル

ジャンル

[社会・調査報道](#) [事件・事故・裁判](#) [経済](#) [労働・雇用](#) [ライフスタイル](#)

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.